

経済学部・経済学研究科

I 研究水準	研究 4-2
II 質の向上度	研究 4-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 16 年度から平成 19 年度間の年度平均で、単著書 8 件、編著書 13 件、研究論文 98.8 件、うちレフェリー付き雑誌に 27.3 件、学会報告数 73.8 回であり、学会賞等受賞が 3 名、外国人研究者受入状況が 9.5 名であり、研究活動が活発に行われている。また、自治体等の各種委員が 40.3 名である。研究資金の獲得状況については、平成 16 年度から平成 19 年度間の年度平均で、科学研究費補助金の採択件数は 30.8 件、受入れ金額は 5,747 万円である。その他の競争的外部資金の受入れ状況は、受託研究費が 3.5 件、金額は 520 万円であるなどの相応な成果がある。

以上の点について、経済学部・経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、経済学部・経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、人間の社会的生存の基礎をなす経済・経営活動と組織との理論的、実証的研究を行い、数多くの優れた成果を上げている。社会、経済、文化面では、世界の経済が直面している諸問題に専門的研究を通じて取り組んで「優れた」研究成果を公開し、政策・助言を通じて公共社会に貢献している。なかでも、家計から見た日本経済の現状分析に卓越した成果を上げた。それらの成果として、各種学会賞などの賞を年度平均 3 件受賞するなどの相応な成果がある。

以上の点について、経済学部・経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、経済学部・経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。